



雪が舞う中での記念撮影

三十年以上に  
に亘り六十五  
期まで続けられ  
平成十四年秋  
の研修で幕を  
閉じた「出光  
興産(株)店主  
室教育」が「出  
光興産(株)中  
堅社員研修」と  
名称が変わり  
再開された。  
当初十月初旬  
に開催する予  
定であったが、  
諸般の事情に  
より延期され  
ていた。  
それから約  
半年後、二月  
六、八日の二

出光研修再開  
第一回 出光興産(株)  
中堅社員研修 宗像大社研修 開催



3月祭事暦

- 毎月1・15日 月次祭  
午前10時 高宮祭  
第二宮・第三宮祭  
午前11時 総社祭
- 3月4日 午前11時  
氏貞公墓前祭  
於…宗像市上八  
氏貞公墓前
- 3月19日 午前11時  
松尾神社祭

泊三日で開催され、三十五、四十歳の研修生二十九人と、本社人事部教育課の本部教育課長以下二人の計三十二人が当大社で研修を行った。今後、も年二回開催する予定。

一日目  
二月六日(金)、今年二度目の大寒波が北部九州を襲い小雪が舞う中、全国各地から研修生が当大社清明殿に参集。予想通り清明殿の場所が分からず戸惑いがみられたが、定刻通りに全員揃う。

開始奉告祭に参列後、研修日程に入る。

開講式、中野人事部長講話  
白衣・白袴の着装、潔斎、神社  
祭作法朝拝習礼。

初めて着装する白衣・白袴、作法に戸惑い、時間を大幅に過ぎた為、予定講義を一つ明日にまわす。

一日の締め括りは高宮齋場での鎮魂。午後八時、寒風吹



開講式で挨拶をする高向権宮司

き荒ぶ浄間の裏参道を懐中電灯の灯りだけを頼りに隊列を組み、無言で百八段の石段を進む。

到着後、当直神職の上席者による「鎮魂はじめ」の掛け声による「鎮魂の上に正座。約二十分間行われ鎮魂やめ」の声で終了。時間は短かったが、足の痺れる方が半分ほどいた。

その後、各班毎に順番で潔斎。清明殿から洗面用具を風呂敷に包み、五・六人で儀式殿に向う様は学生の合宿のようにも見え、研修らしい光景であった。

社紋「<sup>なら</sup>積の葉」  
宗像大宮司家の家紋であり、当大社の社紋。殿にこの御神木は本年を西側樹齢五五〇年を経過し、今も変わらず参拝者を見守っています。

世界最古の木造建築物である奈良の法隆寺は、我が国の木造建築技術の象徴である。

木組みで主要な構造を作る卓越した伝統技術は、現存の宗像大社の社殿にも用いられ、四百余年もの間神郡宗像を見守り続けている。

自然の素材である「木」の性質を良く見極め、適材適所に材を使い、組み方のルールを守り、経験に裏打ちされた最高の技術の領域である、「職人の技」で完成された建築物。

この技術は永年に亘り、地域と暮らしに適した住まいづくりの工夫が職人の手によってなされてきたが、近代建築工法が多様化や合理化、更に真の職人の高齢化等によって、技術の継承が年々困難になってきている。

昨年末、国家プロジェクトとして「家づくりは人づくり、国づくりでもある」という主スローガンのもと、次代に向け人を育て、知と技術を伝えるべく、「大工育成塾」が始まり、第一期生五十名が三年間、講義と技術修得の職人研修に日々励んでいる。

「木組みの家、匠の技」にこだわり、当社の宮大工でもある工務店でも塾生を受け入れ、一人の若者が短期間では修得困難といわれる職人技能の習得に挑み、毎日汗を流している。

全国各地で志ある若者達が、限られた期間を一所懸命に「木」に向かっている。この小さな和が次第に広がれば、必ず我が国の伝統文化は復活し、未来へと確かに受け継がれてゆく。

(Y・I)



神具・装束 結婚式場洋品

福岡店 〒812-0045福岡市博多区東公園2-31  
電話 福岡(092)651-9456番

株式会社 井筒 本店 〒600-8231京都市下京区油小路六条北入  
電話 (075)341-3341(代)~4番  
(075)343-3341番

木組の家 匠の技

総合建築業 株式会社 弘江組

〒811-3406福岡県宗像市稲元1025 電話(0940)32-2567





中津宮(大島)にて

午後九時入浴・就寝。  
二日目  
午前六時起床。潔斎後白衣白袴に着装し、清掃他日供祭準備。同七時三〇分から日供祭参列。終了後、朝食をとり神宝館を見学。約一〇〇〇〇点の国宝、十二万点の重要文化財に圧倒されていた。  
続いて御本殿を背景に神島宮司を挟んで記念撮影。雪の中での撮影は出光研修史上初めてであった。同十時から小柳陽太郎先生の講演。終了後、昼食。  
午後からは、白衣白袴をスーツに着替え、大島へ渡島。波高はなんと四メートル、三人程気分の悪そうな方が出た。着島後、全員で中津宮正式参拝。その後、二班に別れマイクロバスで島内を見学。中津宮選擇所では沖ノ島をボンヤ



中津宮選擇所より沖ノ島を拝す

りと拝すことが出来た。続いて向った御嶽神社では、沖ノ島小呂々島・宗像方面を一望することが出来寒風の中でも研修生は満足そうであった。帰路のフェリーは追い風のためさほど揺れず、気分を悪くする方もなかった。  
帰社後、夕食をとり昨日予定していた当大社の御由緒、神社神道についての講義を受ける。その後、高宮齋場で鎮魂、本日は昨夜の倍の四〇分間行われ、ほぼ全員に痺れを体験いただいた。午後九時、入浴・就寝。  
三日目  
午前六時起床。潔斎後、白衣白袴に着装し、清掃他祭典準備。同七時三〇分から日供祭並びに研修修了奉告祭に参列。朝食後、着替え、荷物整理をし午前九時三〇分社務所に整列。神島宮司以下神職・巫

	(新)中堅社員研修	(旧)店主室教育研修
講義会場	清明殿	儀式殿・清明殿
作法実習会場	〃	儀式殿
就寝場	〃	〃
食事会場	〃	儀式殿 食堂
潔斎場	儀式殿 潔斎室	儀式殿 潔斎室

	(新)中堅社員研修	(旧)店主室教育研修
当大社研修の位置付け	宗像大社が最初(スタート)	宗像大社が最後(ゴール)
日 程	2泊3日	3泊4日~4泊5日
人 数	30名	20名
主 会 場	清明殿	儀式殿
班 数	5 班	4 班

女・管理員・調理員・事務員ら全職員の見送りを受け、離宮。  
この後、一行は宗像市赤間の店主創業者⇨出光佐三翁墓参、創業の地門司を見学し上京。千葉の平川寮で二月二十日まで十日間の研修に入った。  
従前との違いは左記の通り。  
二泊三日という短い期間、当大社がスタートという今までなかつ

## 出光興産(株)

創 業 者 出光 佐三  
社 長 天坊 昭彦  
創 業 明治44年6月2日  
従 業 員 3,306名  
(平成15年3月)  
製 油 所 北海道・千葉・愛知・山口  
国内支店 18ヶ所  
海外事業所 21都市  
(平成14年度)  
関 連 会 社 192社

詳細は同社ホームページを参照  
<http://www.idemitsu.co.jp/kaisya/>



神職から作法の指導を受ける研修生

たスタイルの研修に神社側も方針を戸惑ったが、事前学習が行われないことを生かし、とにかく経験・体験をと実際に感じていただくことを重視した。予備知識がない分



朝拝式(辺津宮・拝殿)

素直に吸収していただいたように思う。  
研修生の皆様の今後益々の御健勝とご活躍を切にお祈り申し上げます。



# 氏八満神社仮殿遷座祭齋行

宗像市田島に鎮座する氏八満神社の仮殿遷座祭が、去る一月二十四日夕刻、当大社高向権宮司以下神職三名奉仕し齋行された。

同神社の本殿・拝殿は江戸期に改築されたが老朽化が進み、この度田島地区の住民が建設委員会を設立し、改築することが決定された。この祭典に先立ち同二十一日に

は仮遷座祭が齋行され、同神社に合祀されている相殿神の御神体が仮殿へと遷座された。

二月七日には建設委員会代表、(株)弘江組、深田組参列の下、施工に先立ち土地鎮めの為の鎮地祭が齋行されている。

当日は寒波厳しく降雪の中、氏八満神社建設委員会副委員長 吉



氏八満神社を出御される御神体

次いで神殿前に御幕が張り廻らされ古式に則った厳かな遷座の儀が行われた。唐櫃に御奉安された御神体が弘江組花田社長・中野部長に捧持され、遷御の御列

は仮殿となる宗像護国神社へと向かった。

宗像護国神社に到着後、氏八満神社の御神体は高向権宮司の手で仮殿へと遷座され、氏八満神社仮殿遷座の儀は滞り無く終了した。

氏八満神社、本拝殿は今秋に竣工予定となっている。



祭典の様子



宗像護国神社に遷座された御神体

# 節分祭齋行

二月三日午前十時から祈願殿で節分祭が齋行された。

前日までの寒さも和らぎ好天の中での祭典となり、早朝から地元玄海幼稚園、開園し一年が経つ風の子保育園の園児ら、氏子会役員、地元総代、宗像市・郡の議員など約百人が参集し、祭典が始まった。

先ず神前にお供えされた約一万袋の福豆袋をお祓いし、神島宮司が今年一年の無病息災・延命招福を祈る祝詞を奏上、宮司、参列者代表らが玉串を奉り拝礼した。

祭典終了後、神職二人が、祈願殿正面階段上で「鳴弦の儀」を行った。一人は表鬼門東北の天空、もう一人は裏鬼門(南西)の地上に向けて、葦矢・桃矢をそれぞれ三度射て、天地の邪気を祓い清めた。

その後一同祈願殿を出て、階段上で豆打ち式を行った。階段下には平



日にも関わらず約三百人の参拝者が詰めかけ、今か今かと待ちわびる中高向権宮司が前導し鬼は外、福は内の第一声を唱え、かみしも袴姿の年男年女が福豆を一斉に撒くと、方々で歓声が挙がって福豆を拾い、賑やかな内に全ての儀式を終えた。

撒かれた福豆袋の内、約一〇〇〇個に景品引き換え券を添付したため参拝者は豆打ち式終了後も交換所に並んで、熊手・破魔矢・干支ぬいぐるみ、切手シート、干支石鹸などの景品と交換し、境内には大きな歓声が鳴り響いた。

### 節分祭とは

現在節分とは立春の前日、太陽暦では二月三日または四日を指す。本来は季節の変わり目である立春・立夏・立秋・立冬の前日それぞれを「節分」と呼んでいた。なぜ立春の前日のみが特に重要とされるかというと、二十四節気陰暦の季節区分の起点になる、つまり「年の初め」となるためである。その為この日に災難を除き、悪鬼・邪鬼を追い払う、或いは厄除けのお祓いをうけ、一年間の無病息災・平穏無事を御祈念する。

全国各地の社寺で、この日は「追儺」や「豆打ち式(豆まき)」の神事が行われており、当大社でも例年節分祭で鳴弦の儀「豆打ち式」が行われている。



# 文化財防災デー 第三十回防火訓練を実施

一月二十六日午前九時五十分、突然火災報知器のベルが正月の賑わいも一段落し、落ち着きを取り戻しつつある大社境内に鳴り響いた。

「文化財防火デー」に合せ、大社自衛消防団、宗像地区消防本部、宗像市消防団第四分団、第六分団、第八分団、第九分団、女性消防団による合同防火訓練が行われた。

今年の防火訓練は、昨年四月の宗



本殿での訓練。後ろは女性によるバケツリレー

本殿授与所の巫女より火災発生を社務所に通報、高向権宮司の指令を受けた大社自衛消防団は直ちに現場へ急行、先ず巫女と女性消防団員によるバケツリレーと施設消火班の神職、管理員は境内の屋外消火栓、地下消火栓により初期消火活動にあたり無事鎮火となった。

続いて午前十時、折からの強風にあおられ祈願殿に延焼拡大したとの想定で引き続き訓練が行われ、一一九番通報で、

像市と玄海町との合併後、初めての訓練で旧宗像市の消防団第四六分団並び女性消防団も初参加となり、大規模な防火訓練となった。

当日、午前九時五十分、本殿裏の森より出火、本拝殿に火勢が迫っているとの想定で発煙筒が焚かれ、炎に見立てた赤い旗が立てられた。火災報知器のベルの音と共に、

宗像地区消防本部の消防車輛五台と宗像市消防団第四六・八・九分団の消防車が、次々と第一駐車場に到着。各部隊は素早い連携により、それぞれの配置につき、一斉に祈願殿大屋根に放水、本番さながらの消火活動を繰り広げ数分後無事鎮火となり消火活動を終了した。

消火活動終了後、宗像地区消防本部、宗像市教育委員長、宗像市消防団長より講評が行われ、最後に神島宮司が防火訓練協力の御礼挨拶を行い、今年の合同防火訓練は無事終了した。

## 文化財防火デー

昭和二十四年一月二十六日に起きた法隆寺金堂の貴重な壁画焼失の反省に立ち、文化財保護と防火管理体制の意識を高めようと一月二十六日を「文化財防火デー」と定められ、この運動は全国的に広がりを見せ、今日では国宝・文化財を要する全国各地の神社・仏閣にて防火訓練が行われており、その防火風景はテレビ、新聞等でも報道され強化が図られている。当大社でも重要文化財である辺津宮本殿、拝殿をはじめ神宝館には十二万点以上にも及ぶ文化財を所有しており、この国民の宝を守る為毎年大社職員は勿論、地域をあげて防火訓練を行っている。

## 赤間西小学校六年生十名 総合学習で来社



来社した赤間西小学校六年生の10名

現在、全国の各小学校では「総合学習」という授業を設けている。特定の主題の下に教科の枠を払って総合的に行う学習で、分かり易くいえは何をしても良い時間だが、学校色が良くみられ、教師の研究発表の場にもよく取り上げられる授業である。

赤間西小学校ではその総合学習を「イキイキ学習」と呼び、二学期は「地域を



祈願殿での訓練



御礼の挨拶をする神島 宮司

知ろう」という主題の下に、二月十二日宗像市役所 宗像ユリックス 鎮国寺・大社に分かれ実地学習を行った。

当日は神職が一人付き、御本殿をはじめ神宝館等の境内を二時間に亘り案内した。六年生といえまだ小学生、考古・宗教学的な話は難しいかとも思われたが、ほとんどの生徒が昨夏の「沖ノ島大国宝展」をみており、抵抗無く良く理解したようであった。

一通り案内を終え三〇分間質問の時間を設けると、日頃から疑問に思っていたことなど事前に準備した質問が寄せられ中には「職員は何人いますか?」「給料はどこから出るんですか?」「沖ノ島はどうして女人禁制なのですか?」等するどい質問もあった。

また、興味があったと付き添ってきた保護者からの質問の方が子供達より多く、親子揃っての総合学習となり意義に過ぎたのではないかと思う。



# 大島小・中学校新校舎に 間もなく工事終了



新校舎完成予想図

中津宮の鎮座される筑前大島で、現在大島小・中学校の新校舎工事が進んでいる。  
平成十四年四月から、小・中学校それぞれ「校舎解体清撤」起工式を、昨年五月には校舎下の「古井戸祓を中津宮勤務の神職が執り行い、工事

と、昭和三十年代に建設された校舎の横に新校舎を建設している。新校舎には図書館・多目的ホールも完備し、学習発表会、学校集会を行うワークスペースもある。  
大島は昔から教育熱心、間もなく大島全島民の夢が叶う。

が開始され中学校棟は昨春すでに完成、中学生は新校舎で授業を受けている。小学校も間もなく完成予定で、「竣工式」は両校舎、関係諸施設が完成する四月二十五日となっている。  
往時の生徒数が多い時には一学年二クラスはあったが、現在少ない学年では六人というクラスもあり、小学校が四十三人、中学校が三十四人の生徒数である。  
この少ない生徒数にも対応できるよう

# 福岡中学二年生職場体験学習



右より、上野さん、井上さん、林田君、加藤君

宗像郡福岡町の福岡中学校二年生四名が、大工、漁師、本屋、お菓子屋、ファーストフードなど様々な職場の中から当大社を選び、二月十二・十三日職場体験学習を行った。  
① 宗像大社を選んだ理由  
② 白衣をきてみて  
③ 社頭にたつてみて  
④ 感じたこと

**上野 遥(一四歳)**  
① 巫女さんの格好をしてみたかった。  
② 新鮮、階段を登る時につまづきそう。  
③ 神職さん、巫女さんとも意外と忙しい。  
④ 神社での仕事内容が少し分かった。  
**井上 まり恵(一四歳)**  
① 絆袴を着てみたかったから。神社に興味があったから。  
② 身が引き締まる。  
③ 普通の商売とは違って、接客態度が違う。  
④ 建物と森が一体となっていて、荘厳な雰囲気を感じた。  
**林田 充泰(一三歳)**  
① 家族で宗像大社に参拝したことがあり、どんな仕事をするのか興味があったから。  
② 大きかった(彼は身長一四〇センチ、体重二九キロと小柄)  
③ 巫女さんは計算してたかと思うと、すぐ参拝者に親切に対応して、その切り替えがすごかった。  
④ 神社は歴史があり、日本人の歴史そのままに感じた。

**加藤 雄大(一四歳)**  
① 古い建物に興味、じっくり見てもみたかった。  
② 剣道着みたいだけど、着心地が良かった。  
③ ピリピリしたイメージだったけど、内側(授与所内)はとても楽しかった。  
④ 古代から続く歴史があるだけでなく、現在もたくさんのお参りがあり驚いた。  
四人には境内、神宝館の見学は勿論、本殿・祈願殿両授与所についてもらい、実際に御守・御札の授与をしていただいた。参拝者として何度か来社したようだが、神社の内側授与する側に入るのは初めての体験で、どんな仕事をするのか想像もつかなかったそうだが、ハキハキと受け答えができて、そうに御奉仕していた。  
この二日間の経験を生かして、勉学に励み今後の職業選択の際に役立てていただきたいと思う。





# 神郡宗像

## 末社めぐり

### 三十五 許斐上七郎殿・許斐下津七郎殿

宗像大社から東南に約十キロ、前号の許斐三御前社(八幡神社)から近年新たに「宗像市民憩いの場」として整備されている、宗像市王丸の許斐山登山道をのぼり始めると、ほどなく右手に古い石段が見える。



許斐上七郎殿・許斐下津七郎殿

石鳥居には六之神社の文字が刻まれ、自然林に囲まれた約百坪の境内には、本殿・拝殿、右手には石祠が二座と木造の境内社が鎮座しており、今回の許斐上七郎殿と許斐下津七郎殿は、その境内社であるとされている。

御祭神は伊弉諾命。福岡県地理全誌には、「許斐山にあり。在家の説に、天神第七代伊弉册尊中央にまします故に、高津七権現と奉稱と云へ共、詳ならず。宗像末社社には、許斐権現眷屬小神上七郎殿一所」とあり、祭事に至るまでの記述も見える。十四世紀半ばの正平年中行事には、「上七郎殿一所」「下七郎殿一所」と見え、神事についても記載もあり、吉野期神事目録にも許斐

社について、祭礼の事が記されている。

更に、慶安神事次第の許斐踏歌事の條には、「七郎殿、庭にてさく。中略くちはやふる七郎殿のゆふたすき、下旬は同前二次七郎殿、御前にてわく。ちはやふる七郎殿のゆふたすき、かけてのちはたのしかりけり」とあり、明細帳によると、現在は六



許斐山登山道入口



之神社の境内社として七郎神社と稱し、高津七郎権現を祭るものとしているが、これに下津七郎をも併せ祀ったのではないかなと思われるとある。

六之神社境内に鎮座する今回の末社は、多くの市民が登山遊歩を楽しんでいる、「許斐山登山道」入口の小高い丘に鎮座しているが、駐車場や公園等周辺の整備状況に比べ、御社殿並びに境内整備が遅れていると感じられる。神奈備山を愛し、山頂の王子神社許斐宮に参拝しようと、山に登る人々を、常に見守るお社に相應しい御神域として整備されたらと感じた古社である。

### 宗像大社春まつりの御案内

春の大祭を左記行事日程で斎行致しますので、皆様方お誘いの上、御参拝下さいますよう御案内申し上げます。

- 三月三十一日(水)
  - 午後五時 総社地主祭
  - 午後六時 宵宮祭
- 四月一日(木)
  - 午前十一時 大祭(氏子奉幣・主基地方風)

### 沖ノ島ビデオ頒布終了

一昨年、RKB毎日放送の御協力で作られましたビデオ、「神の宿る島」海の正倉院・沖ノ島の在庫が全てなくなりましたので、頒布を終了致します。

お受けいただきました御崇敬者の皆様へ篤く御礼申し上げます。



### 俗舞・浦安舞

- 四月二日(金)
  - 午前十一時 総社祭(献上若布採取者表彰)
  - 交通安全講話
  - 午前十一時四十分 宗像護国神社祭
  - 高宮祭
  - 第二宮・第三宮祭
  - 午後二時 献茶祭(南坊流小方社中)



(続)

# 浜の寄物

182

いしい ただし



暖冬といわれた今年の冬だったが、大寒波が二度やってきた。三寒四温が普通だが、珍しく一週間寒さが居続き、その間小雪が舞い、山は積雪に見舞われた。

一月二三日、うっすらと雪が積っていた。早速、花見海岸の雪景色を撮るため海岸へ。自転車で広い範囲に写真を撮ろうと思ったが、道路が凍結して、車はノロノロ運転で渋滞している。私の方は、ほとんど押して海岸へ。海岸は大荒れで、強風と護岸の



古賀花見海岸

しぶきで、海岸道路はあまり積雪はなかった。現在福岡や古賀は防風の竹柵が痛みが激しいので新しく間伐材を使つての工事が行われ一部完成している。(新しい防風柵は、高さ三メートル、一・五メートル二段組み、直径八センチの丸太を半分にしたもの)

雪はその上部に吹きつけられていた。(写真)

漁は大荒れで、護岸は激浪が叩きつけている。その波間に数匹のウスバハギ(海岸よりやや沖合いの海底にすむ。全長七五センチにもなる。漂着するのは四〇〜五〇センチが流れている。)

網も持たず、ただ護岸の上からオロオロするばかりであった。その先に砂が溜るところがあり、そこで四六センチのウスバハギが一匹漂着しているのを拾った。

二度にわたる大寒波で時化が続き、例年になく浜はカワハギ拾いで賑わった。古賀花見で二〇匹拾った人もいたし、あちこちで解体された頭部と皮が見られた。二月八日の日曜日は久しぶりの晴天だったが、一・五キロの浜で二五人に出会った。

いまハリセンボンの漂着が多い。今年の漂着は、例年見られる一・二〜一・三センチより少し大きく、一七〜一八センチほどある。波打ち際にそって、白い腹部を出したものが、威嚇のため体をふ

くらませて針の山になっているものもある。古賀花見で一〇メートルの範囲で数えてみたら三〇匹あった。

今年はソデイカの漂着は少なかつたようだが、寒波の影響でカワハギが多い。

他に、津屋崎宮司浜で一七・五センチのキンメダイを拾った。

波打ち際に背鰭を動かしていた。

正月の二日には古賀花見の海岸で二〇センチほどのヨウジウオ(楊子魚)を拾った。海藻の中に混じって、朽木みたいに見えた。

楊子魚というのに納得。この魚は細長く、吻は管状をして長く突出しており、その先端に小さな口がある。小型の甲殻類などの小動物を吸い込んで食べるそうである。沿岸の波の静かな海藻の多いところにいる。雄の腹部に育児嚢があつて卵を保護する。全長三〇センチになるが二〇センチのものが多く日本・朝鮮・東シナ海・フィリピンに分布魚の事典。

海が荒れた時には、海藻の中に思いがけない漂着物があつて楽しい。

## 昨夏の大国宝展の図録 市内の小・中学校、公立図書館へ寄贈

昨夏、当大社神宝館で開かれた「沖ノ島物語『海の正倉院・沖ノ島大国宝展』」の図録を同実行委員会会長 吉武邦彦氏が一月二十三日、市内の小中学校二十校と公立図書館に、各三〜五冊づつ寄贈した。

この図録は国宝展を記念し、(株)ゼネラルアサヒの全面協力を得て製作されたもので、A4版、八十ページ。四世紀

後半〜十世紀初頭まで沖ノ島で行われた古代祭祀の変遷や、祭祀遺跡から出土した国宝・重要文化財などをカラー写真で紹介している。

吉武会長は「沖ノ島を知らない子供も多い。図録を通して郷土の歴史に興味をもってもらい、愛着心や誇りをはぐくんでもらえれば」。

原田宗像市長は「戦後教育は

伝統文化や郷土の歴史を置き去りにしてきた面がある。図録を活用して、子供たちに対するさとの宝を学んでほしい」と話している。



●お求めは 宗像大社 神宝館 電話(0940)62-1311まで  
※ 遠方の方は、お送り致します。



# 第五十一回 宗像大社歌会詠草

大野展男選 毎月25日メット



今月の作品の批評添削にあたり、感動の統一のために核心だけを詠うこと。そのためには叙述が丁寧すぎないよう注意すること。条件をそろえると当り前のこととなり散文化するきらいがある。を基本としました。

大井 木原 ふさ子

●淡雪の残る塀際にばつちりと四季咲きあやめのひとつ紫  
主題である四季咲きあやめを際立たせるためには他の名詞は目立たないようにする。この一首では「淡雪」。

朝野 藤井 浩子

●五年日記五冊目となり上段健康健詠とペン太く書く  
「残りを思ふまで言ってしまうては歌が浅くなる。何を書いたかが必要、それが集中的叙述、例えば」

日の里 大和 美由紀

●てんとと穂つくことく白菜を撫でて巻きしを確かめて行く  
上句を受けての下の句「撫でては穂の感じから遠さがるし、行く」は説明的となるので流れ去る落葉もあれば渦巻きてまた水口に戻る葉のあり

鐘崎 安永 久子

●戦時下の事こまこまと同室の嬸の語りに若き日の吾が頭つ  
結句の「吾がは破調だし、短歌では吾はなるべく出さないようにし、助詞を少し変えて」

八幡東 永田 久美子

●初霜を踏みつつ摘みし七草も今はスーパ一の店先並ぶ  
原作の下の句では、スーパ一の店先が並んでいるようなので、助詞を丁寧に入れ初霜を踏みつつ摘みし七草も今はスーパ一の店先にあり

日の里 石松 弘次

●捻挫して脚を引き摺る明け暮れにわが歌が載る新春百首に  
このままでは足を捻挫したことが主題か、歌が採られて載ったことが主題か判らない。この場合上句はカットして

短歌新聞一月号にわが歌の新春百人一首に載りぬ  
で喜びが出る、これが一点集中の詠み方である。

光岡 河村 久光

●カセットの艶歌を聞きおろ夕餼後に残暑の西日なおも照りつく  
「聞きおろの「り」は終止形で次に続かないので「る」の連体形とし、夕餼後に「にも」はとして共に次の句になめらかにつながるようになる。」

田熊 吉田 ますみ

●幾人の人とのめぐり思ひつつ一人生くるにあらざるを知る  
二句の「めぐり思ひつつ」のめぐりはめぐり会ひの間違ひと思ふので、そこを直し幾人の人との出会ひを思ふとき一人生きるにあらざるを知る

田野 森 甲子

●わが星を見守り在す氏神の大き銀杏の肌温かし  
このままでもいいが、「銀杏の」の「の」は内にもあるので、「は」と外に発散させて「大き銀杏を受け止めた」。四句は「大き銀杏は」である。

吉留 高山 信子

●如何にしても高千穂神社に詣りたい女孫が大晦日車走らす  
田野 森 つるの

池田 森 龍子

●集落の盆に行きし長男のもどるを待ちて雑煮始まる  
福間 中村 勇

大島 越智 治子

●博多弁なじまぬ嬸仙台を東北訛で自慢し語る  
水仙は島の象徴野に山に咲くを尋ねて一人歩きぬ

東旭ヶ丘 天野 玲子

●孫は今日成人式を迎うると夫は朝より国旗を掲ぐ  
津屋崎 佐々木 和彦

福間 池浦 千鶴子

●暗暗と照る月光を踏み行けば眼下の町の灯りは湧える  
道連れのやうに枯葉は吹く風にかきこそとするわが前うしろ

アロエの花詠みに来るねと帰る娘よ歌にうつつ抜かすな

一回ほど雪をかぶりし庭の梅離々とし白き花ひらきゆく  
吾も妻もそれぞれ部屋に籠る屋吾は怠けの部屋ごもりなり

## 宗像大社歌会 俳句作品集(四八六)

光岡 井上 嘉治

初雪を冠りて連山唯黙す

光岡 白土 凌一

雪ふりて子供よろこぶ吾樂し

東郷 宗風社俳句会

福笹や恵方詣での家族連れ

吉田 湧水

冬薔薇の色暖かき粉雪降る

三浦美千代

母眠る傍への湖や鳩泳ぐ

田中 雨葉

寒鯉沈みぬ動くは水の雲

木原 房子

枯菊も焚きたる煙塀を逼る

日の里 花田いつ枝

鬼燻満天の星焦がしけり

福間 森 清

如月や遠峯も人も変らざる

### 編集後記

未だ見ぬ甥や  
ケ月が経ちます。「叔父さん」にな  
つてしまつたわけです。「お兄さん」  
を自負していただけに、嬉しいの  
に複雑です▼先日、赤間西小学校  
の生徒が総合学習の授業で、当大  
社の御由緒・神社神道を説明案内し  
てほしいと来社しました。子供は  
善手ですが、気付くと自ら「お兄さ  
ん」ではなく「おじさん」についてお  
いでとか言っている自分がいまし  
た▼神武以来、連綿と繰り返され  
るこの気持ち。こうして家が出来  
て国が出来ると『建国の日』にふ  
と想いました。(M・O)

宗像大社社務所 発行所

〒811-3505 福岡県宗像市田島  
電話 0940-62-1311(代)  
発行人 伊藤佳和  
編集人 大塚宗延  
制作 シーエータップ  
印刷 セネラルアサヒ

定価1年送料共1,000円